

人口減少を乗り越える 特色ある学校づくりへの挑戦



2018. 5. 17 松本市教育委員会

人口減少が 顕著な地域の状況

平成29年度 県下の小規模校の状況①（50人以下）

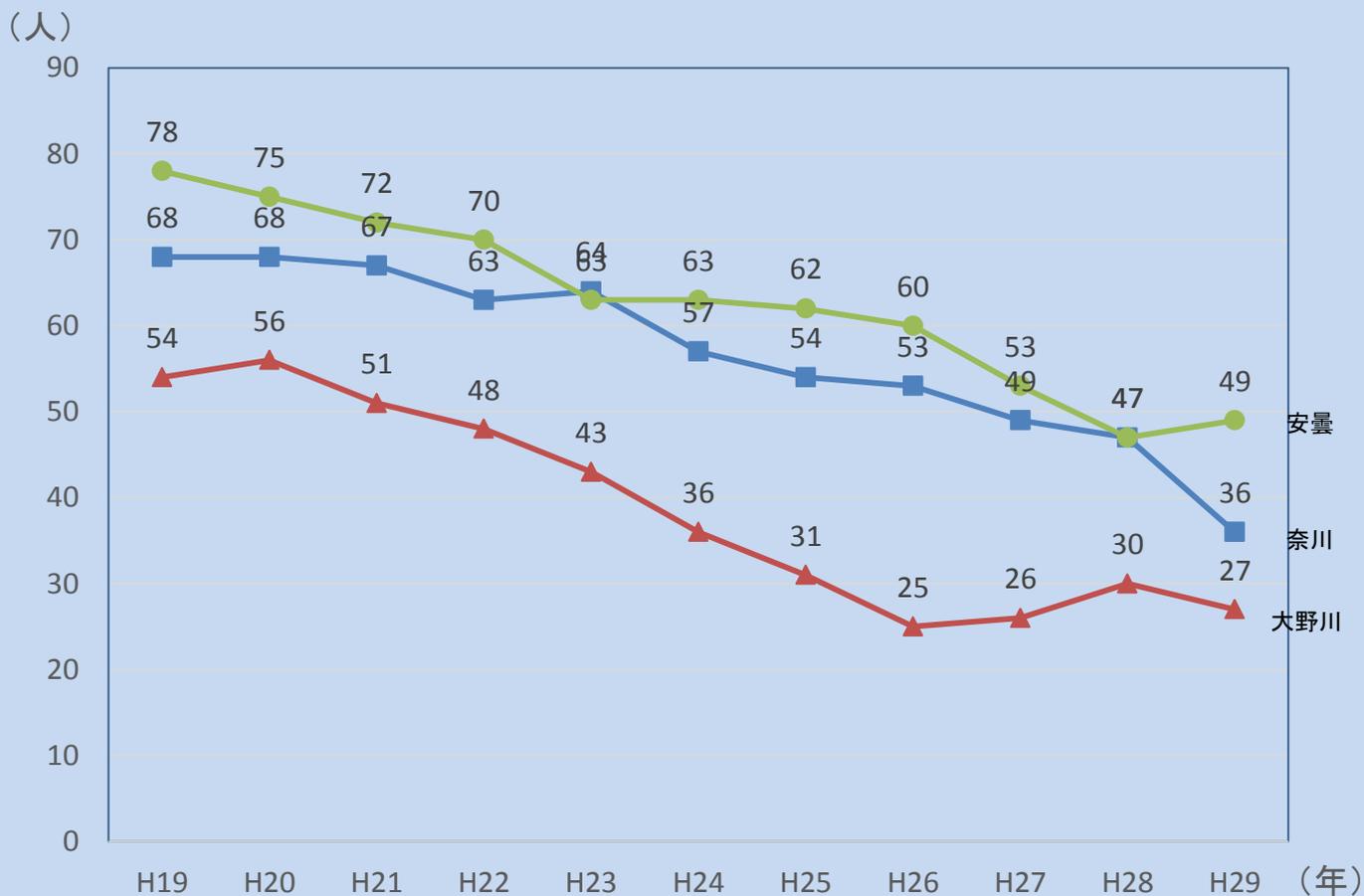
地域	小学校		中学校	
松本市	奈川小	19人	奈川中	17人
	大野川小	21人	大野川中	6人
	安曇小	28人	安曇中	21人
中信地域	八坂小	35人	八坂中	33人
	三岳小	40人		
	王滝小	22人	王滝中	15人

平成29年度 県下の小規模校の状況②（50人以下）

地域	小学校	中学校
北信地域	栄小 44人	栄中 40人
	秋山分校 1人	
	清野小 46人	
	西条小 47人	
	七二会小 44人	七二会中 32人
	信更小 40人	信更中 23人
	鬼無里小 25人	鬼無里中 16人
	大岡小 20人	大岡中 16人
南信地域	川島小 13人（複式）	
	新山小 35人	
	売木小 29人	売木中 18人
	天龍小 18人	天龍中 12人
	上村小 9人（複式）	
	清内路小 22人	
	平谷小 26人	
	根羽小 21人	根羽中 18人
	新野小 39人	阿南二中 25人
	和合小 4人（複式）	
	大鹿小 35人	大鹿中 18人
	千栄小 28人	
東信地域	北相木小 43人	
	西内小 40人	

人口減少が顕著な地域の児童生徒数①

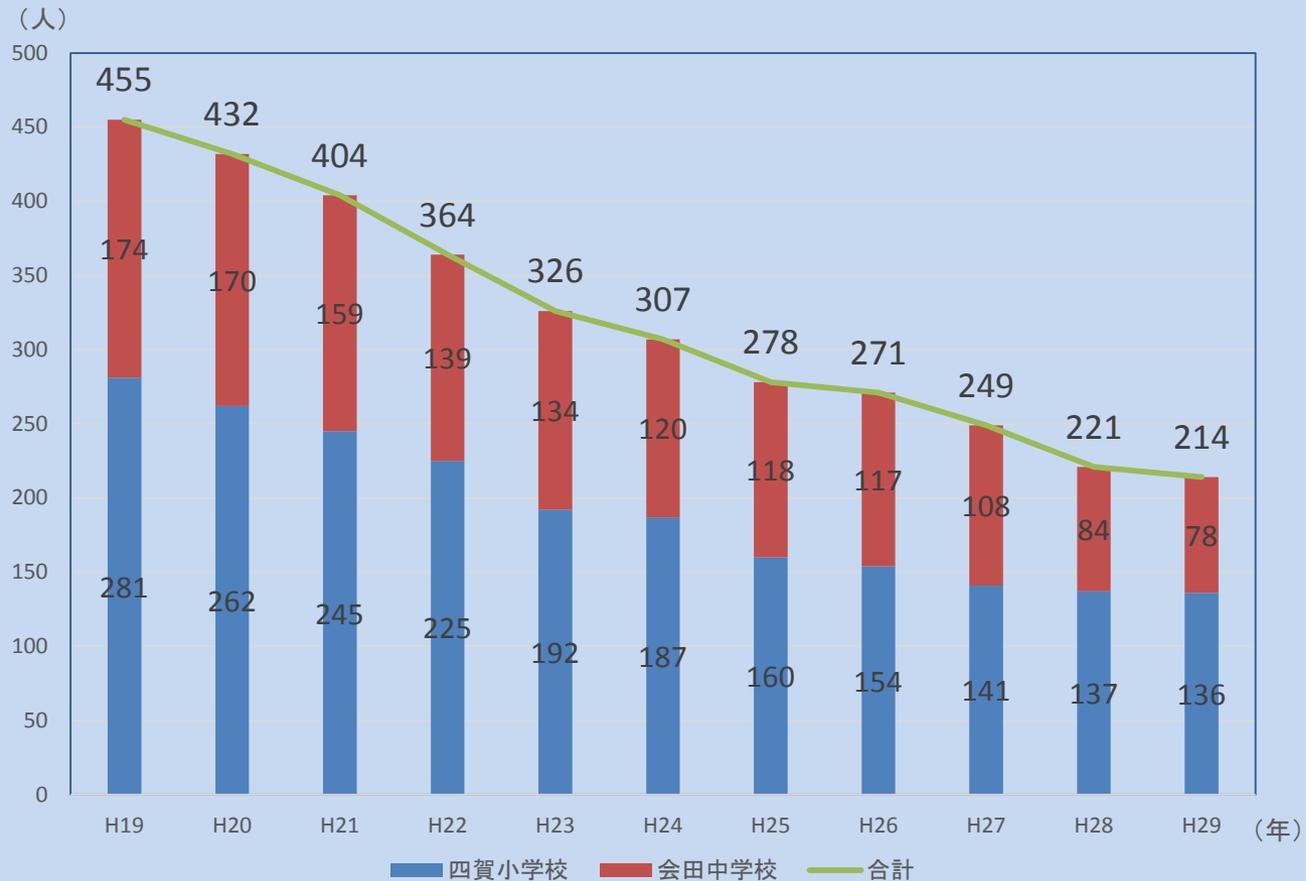
山間3地区の児童生徒数の推移（H19～H29）



※ 松本市教育政策課資料

人口減少が顕著な地域の児童生徒数②

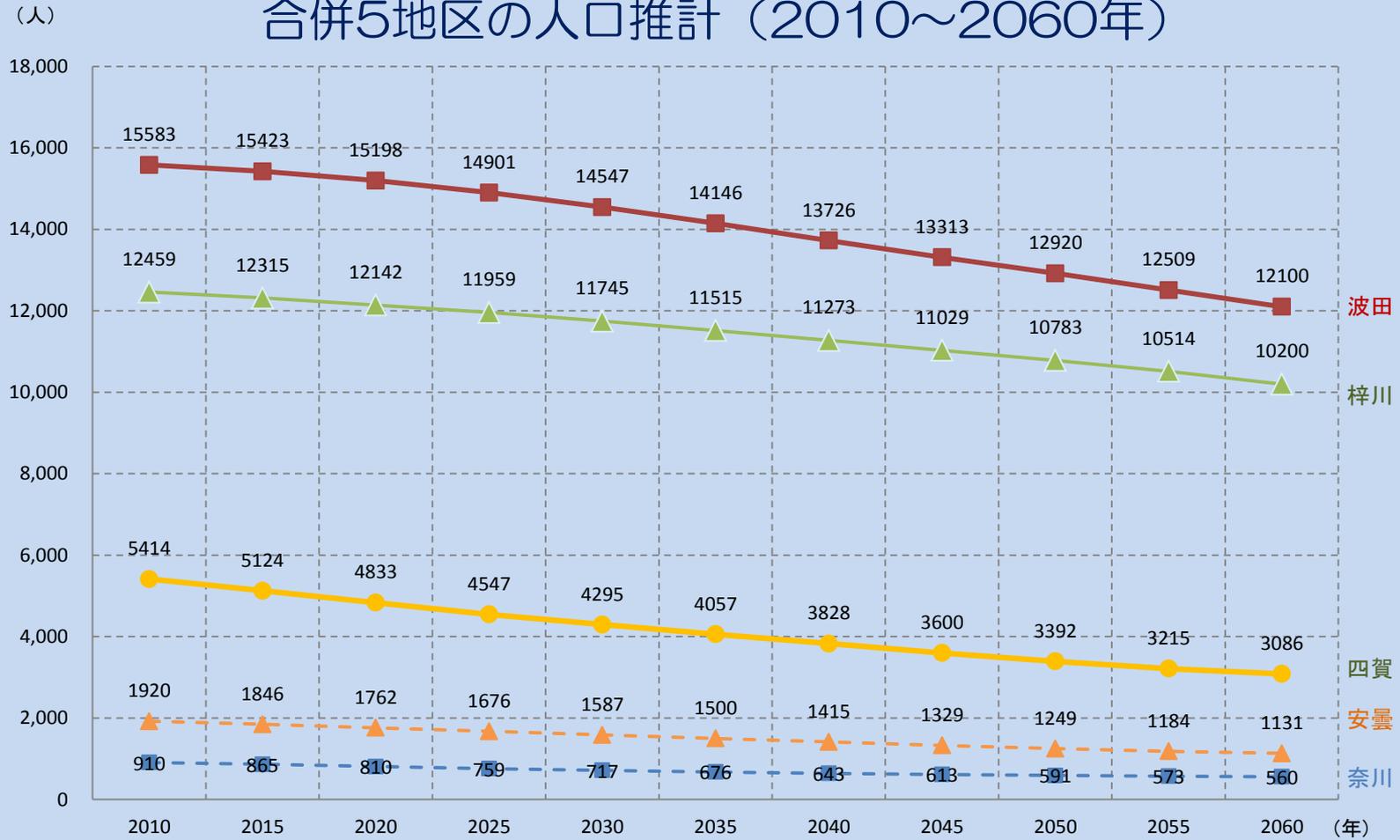
四賀小・会田中学校の児童生徒数の推移（H19～H29）



※ 松本市教育政策課資料

合併5地区の将来人口

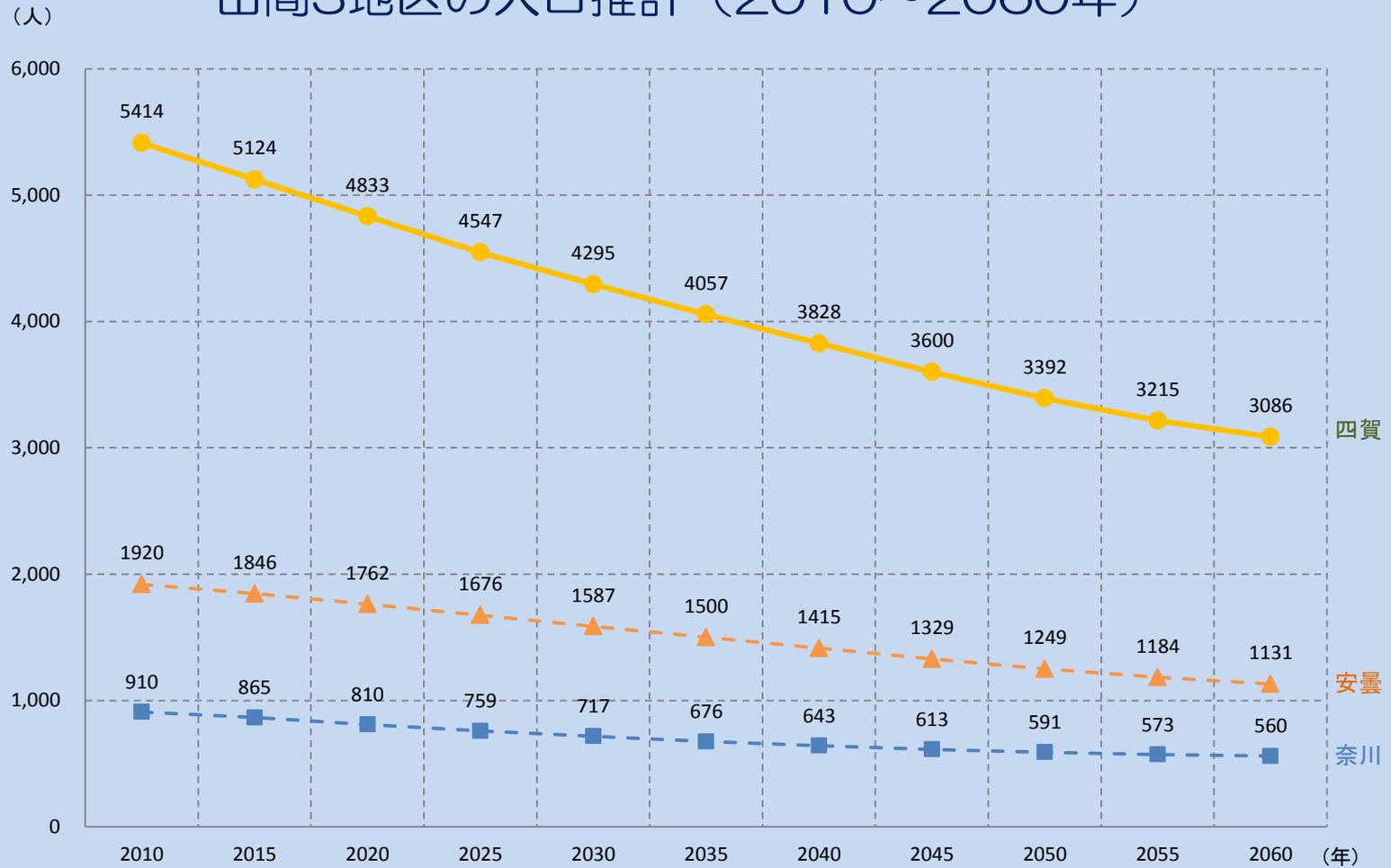
合併5地区の人口推計（2010～2060年）



※ 松本市政策課資料

合併3地区の将来人口

山間3地区の人口推計（2010～2060年）



※ 松本市政策課資料

何が問題か

- 1 学校がなくなるとさらに過疎化が進行
 - ・学校は地域と共に子どもを育てる重要な場
 - ・地域の誇りや未来が奪われる感覚
- 2 統廃合しなければいいのか
 - ・子どもの数が減っても学校として存続
 - ・子どもにとって幸せな学校生活のあり方
- 3 子どもの数を増やすこと
 - ・子どもがいなければ結局地域の維持は不可能
 - ・社会増を真剣に考える
- 4 地域づくりとして考えること
 - ・大人も含めた地域全体の人口増
 - ・産業・働く場の創出
- 5 学校として何ができるか
 - ・子どもをこの学校で育てたいという魅力づくり
 - ・子どもが将来この地で働く人材の育成

地域の魅力を生かした 特色ある学校づくり

地域の魅力と活用できる資源

1 豊かな自然

- 山の恵（山菜・キノコ・木材）と癒しの空間（森林・景観）
- 自然エネルギーの宝庫

2 地域の産業としての農業

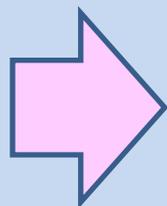
- 特産の野菜や果物
- 贅沢な農のある暮らし

3 空き家や廃校・未利用施設

- 移住を受け入れるハードの活用が可能
- 新たな産業等への活用が可能
- できるだけ親と暮らせる環境
（寮などのへの活用、土日の寄宿）

4 地域の絆

- 安心・安全な地域
- 学校教育にも熱心に協力



総合的な地域づくりとしての
ビジョンが必要

松本市の考える特色ある学校とは

- 1 地域の資源を生かす
 - 自然体験ができる
 - 農のある暮らしを体験できる
 - 地域の暮らしや文化を学ぶ
- 2 地域の人と交流する
 - 地域の行事等に参加
 - 子どもが地域の一員として大切に育てられる環境の醸成
- 3 他にはない特色ある学び
 - 移住を受け入れるハードの活用が可能
 - 新たな産業等への活用が可能
- 4 学校一辺倒ではない複線型の価値観を育てる
 - 安心・安全な地域
 - やり直しができる仕組み
 - 学校教育にも熱心に協力
- 5 バランスの取れた「全人教育」を目指す
 - 地域でお互いに助け合いながら「生きる力」を育む
 - 他者を気遣い、社会に貢献する人材の育成

どのように特色を生かすか

- 1 学校ではない社会教育のサークル活動として実施
 - ・コミュニティスクールも活用
- 2 自然体験や人との交流を重視
 - ・ワンテーマのサークルではなく多様な内容に
 - ・自然の中での遊びや地域住民との交流もプログラム化
- 3 特色ある学びを一流の専門家が指導
 - ・専門家も教えることを仕事と位置づけ
- 4 単なる技術ではない感性を磨き、多様な価値観を育成
 - ・地域で生き抜く力を育む
- 5 地域の暮らしに溶け込み、定住・起業できる人材育成
 - ・将来はこの地に定住し、起業等で自立
 - ・空き家や廃校の活用
- 6 全国から児童・生徒を募集
 - ・親子で移住や子どもの入寮等の環境整備
- 7 地域づくりとセットに
 - ・地域の暮らしに学ぶ

モデル校の取組みイメージ

No.	学校名	分野	取組内容	備考
1	奈川小中	ICT・プログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人と接しながら、ICTをどう活用するかの感性を磨く ・プログラミングの基礎教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境の整備 ・ICTのプロによる指導
2	安曇／大野川小・中	観光・国際化・英語	<ul style="list-style-type: none"> ・地元観光地でのガイド等の体験 ・外国人との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の観光協会と連携 ・観光のプロによる指導
3	四賀小・中	クラフト・手仕事・ロボット	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフト作品製作の技術 ・ロボット工学の基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業場の整備 ・クラフト作家による指導 ・ロボットの専門家による指導

- 1 特色あるサークル活動として実施（プロの専門家が指導）
- 2 週に3日程度は自然体験
- 3 単なる技術ではない感性、人との関係を学ぶ
- 4 子どもだけ移住の場合は、寮を設置
- 5 将来の定住・起業できる人材の育成

未来を変えた島の学校 (岩波書店)

隠岐島前発 ふるさと再興への挑戦

山内道雄 島根県海士町長 島生まれ島育ち

岩本 悠 高校魅力化コーディネーター・東京生まれ

田中輝美 ローカル・ジャーナリスト 校長の教え子

僻遠からの狼煙 (まえがき)

「この島には宝が眠っていますよ」と、私たちには見えなかった島の宝を探し、見出し、光らせてくれました。私たちのような年寄りがすべきことは、「よそもの」「ばかもの」「わかもの」と呼ばれる彼らから学び、彼らを生かし、彼らが挑戦できる舞台づくりをすることだと考えた。

託された願い (岩本悠 あとがき)

過疎地の現実は厳しく、今後も勝算があるわけではない。今の人間が今の取り組みをずっと続けられるわけでもない。その中で、私たちの夢は、ここで学んだ若者たちがいつか志を繋いでいってくれること。そして、彼らがまたいつの日かどこかで挑戦を続けてくれること。そんな願いを託しています。

大人が変われば、子どもが変わる。
子どもが変われば、未来が変わる。

「隠岐島前高等学校魅力化構想」の概要

理念

島前地域とともに歩む高校 一人ひとりの夢の実現を目指して

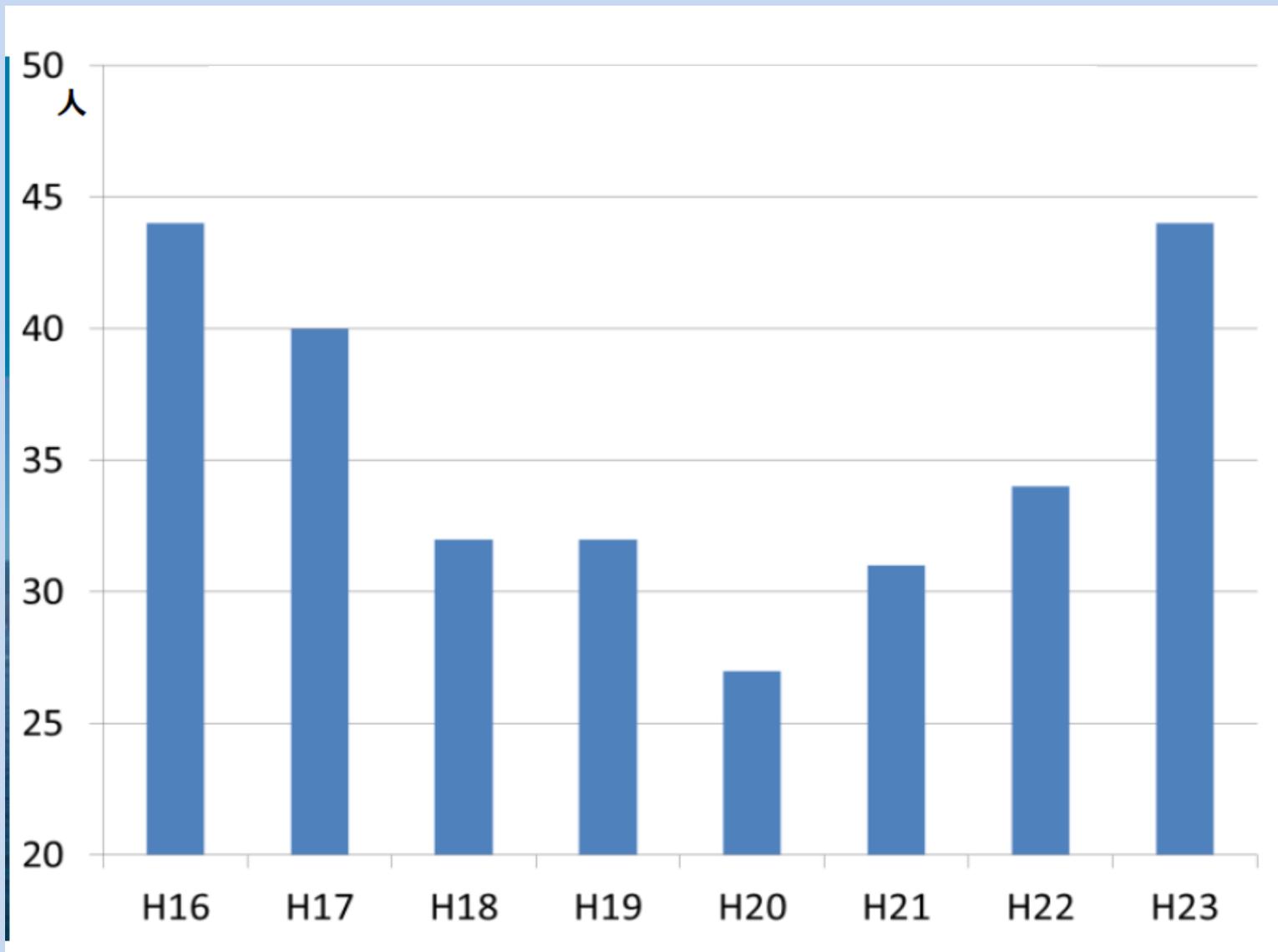
指標

- 1 島前三町村からの生徒入学率の増加
- 2 島外からの生徒入学数の増加

施策の概要

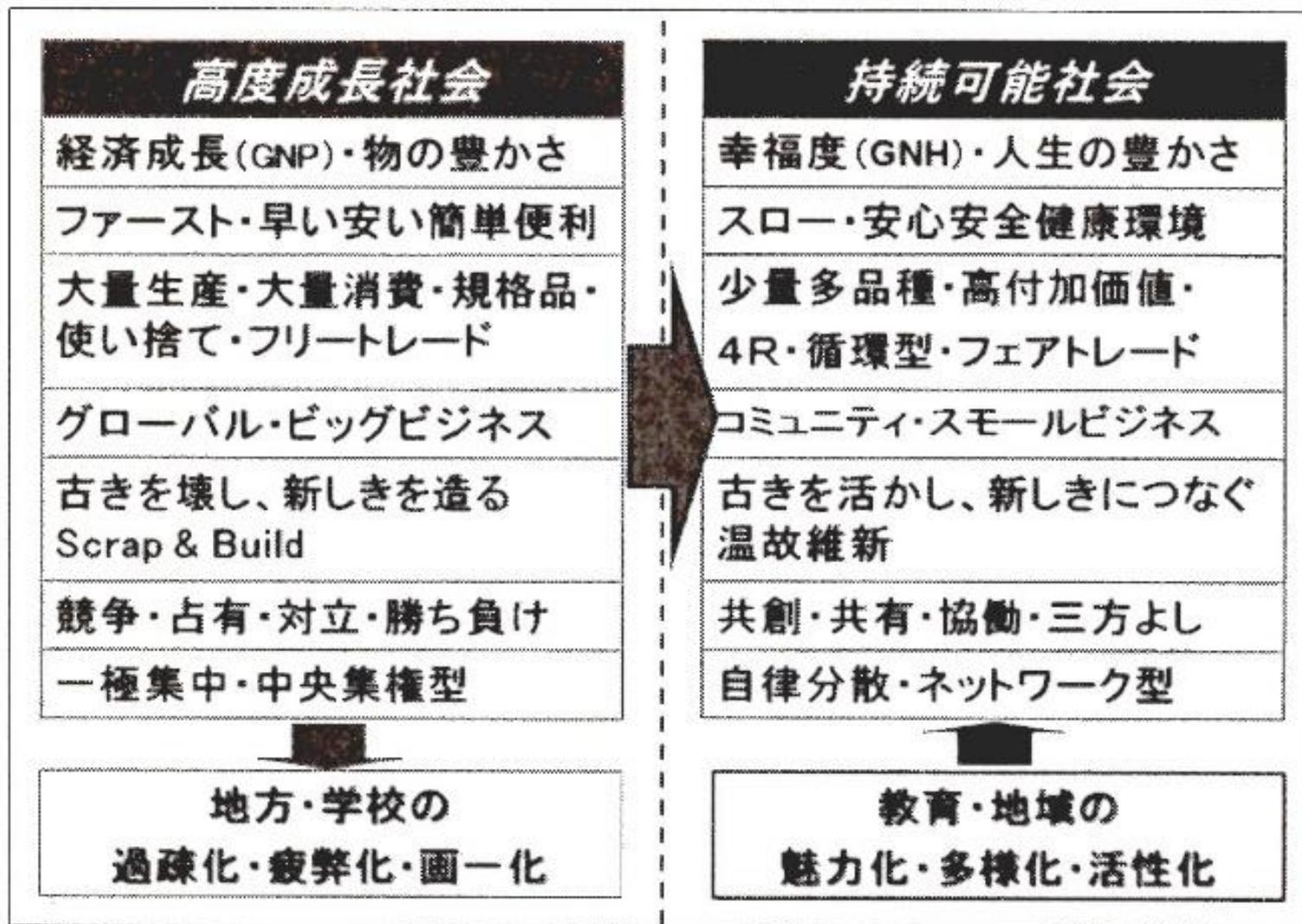
- 1 魅力的なカリキュラム編成
- 2 学力向上とキャリア教育の充実
- 3 部活動の魅力化
- 4 地域との連携
- 5 交流の促進
- 6 寮の活用
- 7 島内へのPR
- 8 島外へのPR
- 9 教職員数の確保

島前高校の第一志望者数の推移



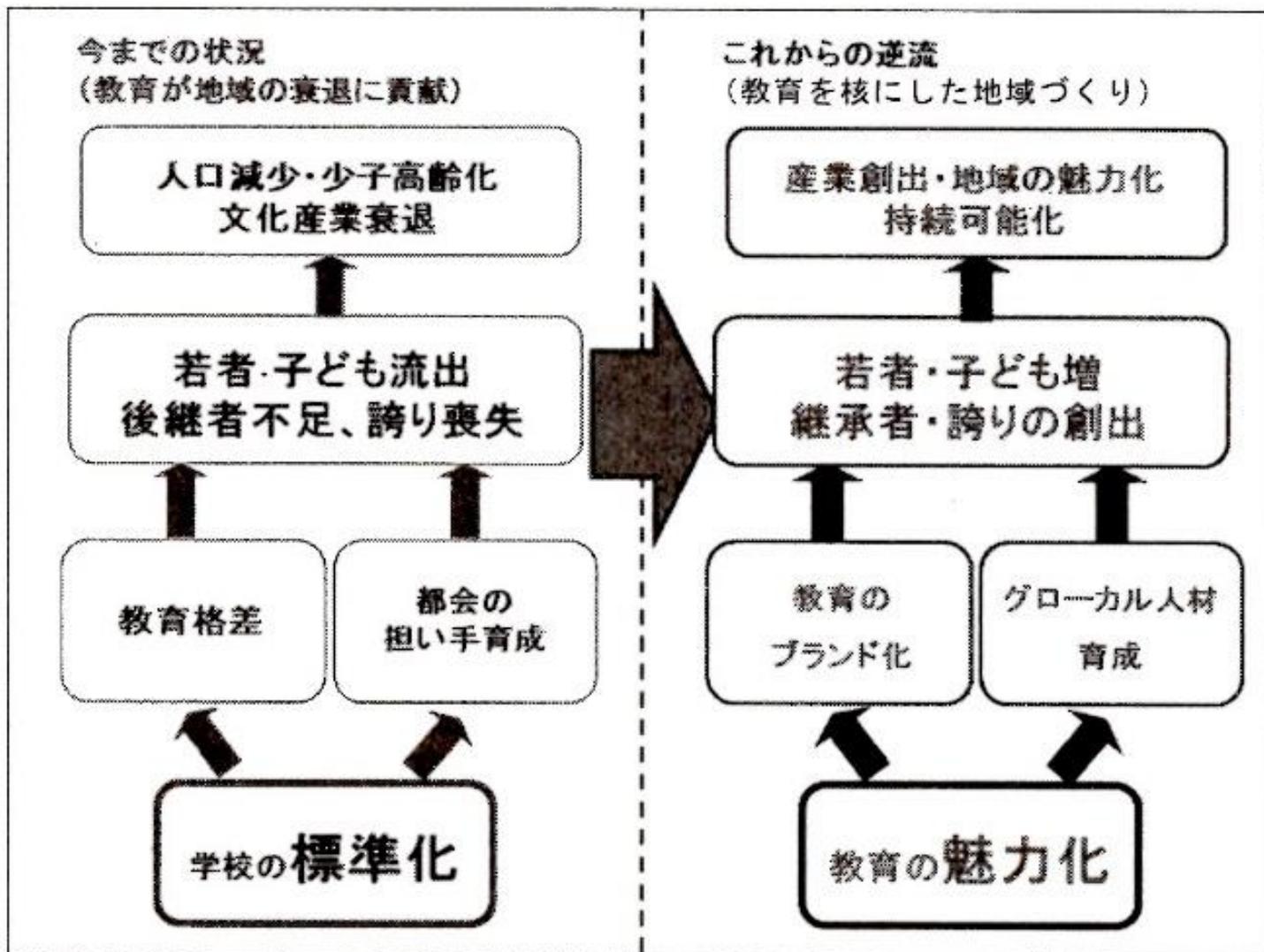
※ 島前高校魅力化プロジェクトHPより

これからの社会の在り方



※ 岩本悠プレゼンテーションより

これからの学校の在り方



※ 岩本悠プレゼンテーションより

美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本

この松本の地で生きていくことに「誇り」を持ち、
市民としての「責任」を果す。
それが「品格のある美しいまち」につながる。

「いいまち・松本」を共創

ご意見等をお寄せ下さい。

松本市役所 教育委員会

0263-34-3000

